様式3

学校番号 74

令和　6　年度　学校評価書　（ 実施段階 ）

福岡県立　八 女　高等学校

スクール・ミッション （本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像）	知・徳・体の調和のとれた、地域で活躍できる人材を育成する学校 探究的な学習活動や学校行事、部活動を通じて全人教育を行い、大学進学をはじめとする生徒一人一人の希望進路実現を図り、地域社会に貢献できる人材を育成します。	
スクール・ポリシー （三つの方針）	グラデュエーション・ポリシー （育成を目指す資質・能力に関する方針）	1　自立的に行動し、判断できる。　2　物事を多面的に探究できる。 3　礼節を重んじ、他人を思いやる。 4　高い社会性を持ち、地域で活躍できる。 5　周りと協働し、課題解決を進める。
	カリキュラム・ポリシー （教育課程の編成及び実施に関する方針）	1　観点別評価を実施し、生徒一人ひとりの良い点を伸ばす。 2　総合的な探究の時間を通じて、地域の課題と向き合う。 3　主体性・創造性・他者理解・批判的思考力・構想力・見通す力・コミュニケーション力・自己調整力の8つの資質能力を培う魅力ある教育活動を実践する。
	アドミッション・ポリシー （入学者の受け入れに関する方針）	1　志を高く持った人　2　知的好奇心に富む人 3　主体的に行動できる人 4　社会貢献の意識が高い人 5　学力優秀である人

学校運営計画（4月）

学校運営方針			評価（総合）
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
「質実剛健」の校訓の理念に基づき、「知徳体」の調和のとれた地域で活躍できる人材の育成を目指す。また、目指す生徒像を、「志の実現のために、学び、挑み、和を尊び、社会に貢献できる人物」とし、昨年度は、年度重点目標は概ね達成できた。しかしながら、細かくみると各行事及び取組について新しい視点での対応が求められており、分掌間で十分なコミュニケーションをとりながら、大胆に教育課題に取り組むことによって、更なる魅力化、特色化につなげていきたい。	目標や理念を全職員で共有し、すべての教育活動で具現化する。	全ての教育活動（各教科・科目、ホームルーム活動や総合的な探究の時間、学校行事等）で具現化を目指す。	A
	ICTを活用し、常に授業改善や評価と指導の一体化を図り、教科指導力を向上させる。特に、「個別最適な学び」の実現を図る。	全ての生徒の学力を向上させることに加え、習熟クラス・特進クラス等の成績上位者に対する3年間の育成法を確立する。	
	八女高の役割や実践を地域と共有し、地域から期待される、信頼される学校をつくる。	保護者や地域の本校に対する教育的ニーズを的確に把握し、その期待に応えることにより地域から信頼され、更に期待される学校をつくる。	
	外部資源（外部講師招聘、地域・県・国の取組への積極的参加、関係団体との連携）等を活用して幅広い見方・考え方を育成する。	外部講師の積極的な招聘、地域・県・国の取組への積極的な参加、関係諸団体との連携などを積極的に行うことにより地域と一体となった教育活動を展開する。	
	「師弟同行」を基本とし、「楽ではないけど楽しい学校」をつくる。	教職員の支え合いや助け合いなどにより働きやすい環境をつくる。	
	本校が育成する8つの資質・能力（『主体性』『創造性』『他者理解』『批判的思考力』『構想力』『見通す力』『コミュニケーション力』『自己調整力』）を広報し、学校の目標や役割を地域と共有する。	それぞれの育成する資質・能力と授業内容、行事等を明確に結びつけることによって授業の質、行事の質の向上を図るとともに広報活動においては、それらの資質・能力を生徒自身が最大限PRできるものとする。	

様式3

自己評価								学校関係者評価	
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート（外部アンケート等）の結果等	評価（3月）			結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
教務	授業改善を推進し、グランドデザインで挙げられている「8つの資質・能力」の育成を図る。	新学習指導要領の趣旨を踏まえ、3観点による観点別評価を確実に実施し、授業改善につなげる。	学校満足度調査により、定期考査の内容が自分の学力を高める内容になっていると9割以上の生徒が回答している。また、各教科・科目とも3観点による観点別評価が定着し、生徒を多面的に評価することができている。	A	A	A	3観点による観点別評価の定着、考査問題の質向上と取組んだ結果、生徒の満足度は高いものとなっている。しかし、生徒の授業アンケートや研修課による授業改善シートから見てみると、更なる授業改善を行っていきたいという先生方が大半である。生徒の学習改善に繋がる指導とともに授業の質向上を行っていく。	A	○授業の様子を見ても、八女高の生徒は顔をあげて真剣に授業に臨んでいる。先生方もICTを有効に活用し熱意ある授業を実施している。 ○授業の中でいかに思考力を身に付けさせるかが課題である。 ○授業と家庭学習をつなぐ指導の必要性を感じている。
		単元（学習内容のまとまり）ごとに学習の振り返りを行い、主体的に学習に取り組む態度を育成するとともに、授業改善につなげる。		B					
		考査問題の質を向上させ、共通テストの傾向を踏まえた問題も加えながら、定期考査の学習が学力の向上につながるようにする。		A					
	生徒の自学力を高め、家庭学習を質・量ともに充実させる。	各教科において、シラバスを活用して学習の目的、内容、学習方法、評価の観点についてのガイダンスを2回以上行い、主体的に学習に取り組む態度を育成する。	学校満足度調査から、正課授業で自分の学力を高めることができていると9割の生徒が、また、予習・復習の習慣が身についていると7割の生徒が回答している。	A	A		予習・復習の習慣が身についていると回答した生徒が7割であった半面、あまりそう思わないと回答した保護者が4割近くあり、若干開きがあった。今後、上記で述べた生徒の学習改善に繋がる授業改善が課題である。		
		ホームルーム活動の時間を活用し、学習方法や学習計画について考えさせ、学習の自己調整力を身につけさせる。		B					
企画広報	在校生・中学生・保護者・同窓会・地域社会に対する広報活動を充実させ、魅力的な八女高校の姿を発信していく。	中学生体験入学の内容をさらに充実させ、中学生・保護者に対し、本校教育活動への理解を図る。	・中学校体験入学のアンケートから、95%以上が、「参考になった」との回答であった。 ・学校満足度調査から、「八女高だよりやSNS等で行事等が伝わっている」との回答が85%以上（生徒・保護者とも）であった。	A	A	B	・2回の中学生体験入学が、両方とも中学生・保護者に好評であった。特に2回目がときわ祭と同時開催であり、行事を見ていただける良い機会となった。また、中学校での説明会は、今後も本校の魅力が伝わるようにしていきたい。。 ・ホームページやSNSは、今後は、行事等を各学年や分掌に協力いただき、掲載する内容を増やし、迅速にアップしていきたい。	B	○八女高のホームページやインスタの更新の頻度とスピードを上げて欲しい。八女高の良さをもっとアピールしてほしい。 ○素晴らしい取組を行っているが中学生や保護者に伝わっていない部分がある。広報活動に工夫が必要。 ○PTA活動が今年度は風通しが良くなった。
		中学校での進路説明会において、本校および本校生の魅力をアピールし、本校の広報活動に努める。		A					
		魅力ある「八女高だより」（年3回発行）や看板・横断幕等を作成したり、ホームページやSNSを活用したりすることで、生徒募集につなげる。		B					
	教職員間や保護者との連携を促進しながら活動を支援し、諸行事の円滑な遂行を図る。	各分掌との打ち合わせを密にし、学校行事等が円滑に運営できるよう支援する。	・学校満足度調査から、始業式等が円滑な進行は約75%（生徒回答）、・PTA活動の充実は83%（保護者回答）であった。	B	B		・気候に合わせて、始業式や終業式をzoomで行うことが多くなり、zoomの接続がうまくいかない場合があった。今後は、情報課と協力して対応したい。 ・PTA活動については、今後も役員の方と協力しながら、取り組んでいきたい。		
		職員・PTA役員・保護者間の連携を密にし、PTA活動が充実するよう支援する。		A					
生徒指導	適切、的確な言動を実践できる自主・自律した生徒の育成	在学中に成年年齢に達することを踏まえ、学校生活内外での教育活動を通して、ルールやマナーの大切さを理解させ、規範意識を向上させる。	・ルール、マナーが守れている生徒（約99%） ・生徒会活動、学校行事のやりがいを感じている生徒（96%） ・校則が適切だと考える保護者（95%）	A	A	A	規範意識の向上、自主・自立した生徒の育成については、進歩があったといえる。今後も継続的な指導に取り組み、社会性の育成を促していきたい。また、ときわ祭を生徒が主体的にリメイクし、実施した。参加型・鑑賞型どちらもやりがいや充実感を感じる生徒が多くいた。今後も生徒が主体的に学校行事に取り組める環境を整えたい。	A	○多くの生徒が学校行事で実行委員等を務めるなど、主体的に取り組んでいる。 ○大運動会やときわ祭（文化祭）での生徒の生き生きとした姿が印象的であった。 ○規律正しく挨拶ができる生徒たちであると思う。 ○もっと中学校と連携することで相乗効果が生まれるのではないか。中学校も八女高もさらなる成長が期待できると思う。
		生徒会活動や各種委員会活動、学校行事の運営に、生徒一人ひとりが積極的に参加できる環境を整える。		A					
		希望進路実現に向けて、基本的な生活習慣や家庭学習時間等を確立させ、タイムマネジメントスキルを育成する。		A					
	謙虚で直向きな姿勢で物事に取り組み、思いやりや感謝の心を持つ共感的な生徒の育成	授業や清掃活動等、日々の学校生活に真摯な態度で臨ませることにより、生徒間・生徒教師間の信頼関係を構築させ、謙虚・感謝の心を育成する。	・学習環境の満足度 生徒（満足94%） 保護者（満足98%）	A	B		心の教育について、成果が感じられたものの個人差が大きいと思われる。今後も教員間での情報共有を行いながら、継続的な指導が必要である。特に、自尊心の向上と献身的な行動力の向上に力を入れたい。 部活動においては、ここ数年、加入率が少しずつであるが減少傾向にある。部活動だけではなく、生徒がさまざまな活動を本校在籍中に行っていけるような環境づくりに尽力していきたい。		
		「立ち止まって挨拶」「校門一礼」を奨励し、感謝の心を育み、相手に伝わる心のこもった挨拶ができる生徒を育成する。		B					
		部活動を通して自己指導能力や人間形成を図るため、部活動加入率80%以上を目指す。また、部活動等における上位大会出場を目指す。（九州大会以上…5部、県大会…12部）		B					

様式3

自己評価								学校関係者評価	
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート（外部アンケート等）の結果等	評価（3月）			結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
保健	生徒の心身の健康の保持増進	学校保健安全の行事や活動をとおして、心身の健康に関係を持ち、正しい知識を学び、自ら行動できる能力の育成と実践力の向上を図る。	悩みや心配事などを職員へ相談できる環境であるか 生徒（満足86%） （あまり思わない12%） 保護者（満足72%） （あまり思わない24.5%）	A	B	A	外部講師による講演会の実施や各行事ごとの注意喚起・指導など行った。自ら行動できるためにはこの繰り返しが大切だと考えている。 保健室利用が微増している中、養護教諭と担任など常に連携して対応を行った。SC、SSWと学校の連携はできていたを思う。毎回カウンセリングが必要である生徒が多く、また、フィードバックの時間が長くなっている。 上記の成果があったものの、個人の満足度は感じられないこともあり、今後も献身的な対応を継続していきたい。	A	○学校満足度調査の回答全般で生徒と保護者の間で差がある点が少し気になる。 ○コロナ禍以降、欠席に対する生徒・保護者の意識に変化が感じられる。欠席に対するハードルが下がったようだ。 ○トイレをはじめ清掃が行き届いている。非常にいい学習環境である。 ○廊下のごみが一定期間拾われていないことがあった。ゴミに気付いた者が、率先してサッと拾える生徒たちであって欲しい。
		担任からの相談や学年会等での事案については連携して対応する。また、教育相談委員会を定期的に開催し、「気になる生徒」や「配慮を要する生徒」に関する情報を職員間で共有し、対応について協議を行い、その対策については、学校全体で組織的にあたる。		B					
		スクールカウンセリングや健康教育推進事業（性と心の健康相談）、訪問相談等を計画的に実施し、学校医やSC、SSWの指導・助言を受けながら、関係職員や関係機関と連携し生徒や保護者の支援に当たる。		B					
	学校安全及び環境衛生の整美	生徒のけがや病気に対する、適切な処置と対応を行う。	ケガの対応・説明 生徒（95%） 保護者（96%）	A	A		学校として、できる範囲での処置を行った。連絡も担任などにもお願いして、状況確認も行ってきた。保護者などが適切と思わなかった点やご意見があればすぐに伝えてほしい。 学校環境検査は適合であった。		
		学校管理下において学校薬剤師の指導を仰ぎながら、学校環境衛生検査の実施報告を行い、環境衛生の整備に努める。		A					
	委員会活動の活性化	生徒が活動できる場と環境をつくる。	学校清掃状況満足度 生徒（満足94%） 保護者（満足98%）	A	A		今年度は、特にワンヘルス教育に力を注いだ。保健委員を中心に学校全体を巻き込んでワンヘルスフェスタにも出店、収益金を動物愛護団体に寄付することができた。		
		委員会活動をとおして、個々の潜在能力を生かし、主体的に行動できる生徒育成を目指す。		A					
キャリア教育	生徒の社会性・自己肯定感を高め、早期からの進路意識の高揚を図る。	生徒の進路意識を高めるために、「進路講演会」や「進路ガイダンス」をはじめとする進路関係行事を計画的に企画・実施し、生徒を積極的に参加させる。	生徒92.9%、、保護者87.2%が、本校のキャリア教育が進路について考える上で役に立ったと回答している。	A	A	A	各学年・分掌・業者と連携し、効果的な「進路講演会」等を実施することができ、生徒の進路意識高揚につながった。2年次の「総合的な探究の時間」『ちきゅうみらいプロジェクト』では、産官学交流を目指した探究活動を行い、学びを深めることができた。今後は総合型選抜や学校推薦型選抜での志望に活かすことができるよう、内容を工夫していきたい。	A	○課外授業が希望性となり、個別の取組やガイダンスが必要となる。今後も生徒の未来につながるように積極的に指導を行って欲しい。 ○個別最適な学びと深く考えさせる取組を推進し、それが将来への種まきとなるようにお願いしたい。
		「総合的な探究の時間」はキャリア教育の視点、及び、大学進学・公務員就職での活用の視点を持ち、1年次に「進路探究」、2年次に「ちきゅうみらいプロジェクト」を取り入れ、主体的に自分の進路について考えさせる内容にする。		A					
		生徒の進路希望を的確に把握するために、各学期1回の進路希望調査を行う。また、生徒のキャリア意識の形成を図るために、各学年と提携して「ポートフォリオ」、「キャリア・パスポート」を記入させる。		B					
	課外・長期補習・土曜セミナーの更なる充実を図り、生徒の基礎学力の伸長を図る。	生徒の進路希望実現を図るために、また、新課程入試に応じるために課外授業・長期補習・土曜セミナーを効果的に実施する。	生徒92.1%、、保護者78.2%が、学力の伸長につながったと回答している。	B	B		放課後課外は、1,2年生は週3日、3年生は週5日、希望制で実施した。1,2年生の課外は難関大進学や英検取得対策として、土曜セミナーは模擬試験対策として実施し、生徒の満足度は高かったが、より模擬試験結果や進学結果につながるよう工夫することで、保護者の満足度も上がると思われる。		
		公務員試験を受験する生徒の進路希望実現を図るために、2年生2学期期末考査後からの公務員課外や公務員専門学校と連携した公務員専門科目・面接対策を企画・実施する。		A					
情報	1人1台端末を授業や家庭学習に利活用できるよう、教員のスキルアップを図る。	校内外での活用事例を収集し、それを閲覧する環境や研修を企画する。	生徒93.9%、、保護者84.2%が効果的な教材の提供ができていると感じている。	A	A	A	新たに生成AIやスキャナが導入され、また教員のChromebookの使用頻度も上がっている。家庭での利用が少なく、保護者に見えるまでには至っていないので、家庭学習での活用を推進する。	A	○タブレット等のICTを活用しての授業が数多く行われており、情報化への対応が進んでいる。 ○来年度からスタディサプリからClassiに変えるとのことだが、生徒が自ら積極的に活用するような指導を継続して欲しい。
		教員とICT支援員とのパイプ役を担い、授業へのICT活用について相談しやすい環境をつくる。		A					
	校務支援システムや各種業務のICT化について、業務のスリム化に繋げると共に、誰でも扱えるようにする。	校務支援システムについては、教務・進路・保健等の各担当者が業務に取り組めるようなシステム設定やサポート体制を確立する。		A	A		現状での業務のスリム化は十分に達成されているようである。次年度はClassiを活用し、保護者対応においても、他分掌と連携を取りながらICTを活用した業務のスリム化を図る。		
		Google ClassroomやFormsなどの活用については、各担当者が実務を担えるようなマニュアル作成等のサポート体制を充実させる。		A					
	スタディサプリ活用の更なる充実を図る。	1人1台端末を使ったスタディサプリの利用を通して、更なる活用を推進する。	生徒49.1%、保護者62.3%がスタディサプリを活用した個別学習ができたと感じている。	C	B		スタディサプリは本校生徒の学習には合わない部分があった。次年度から導入するClassiについては、教員の活用が増え、また生徒の自宅学習に繋がるよう、情報提供や研修を充実させる。		
		個別最適化された学びの実現に繋げるため、到達度テスト・連動課題配信・外部模試等の連携を見直し、スタディサプリの活用を促進する。		B					

様式3

自己評価								学校関係者評価	
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート（外部アンケート等）の結果等	評価（3月）			結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
研修	教員のキャリアとニーズに応じた研修の充実を図る。	「Find！アクティブラーナー」を活用し、職員一人一人のキャリアやニーズに応じて研修ができるような環境を整える。		A	A	B	職員研修5回実施（内容：生徒把握、いじめ、危機管理、救命救急、情報機器操作、授業改善等）。 成果：先生方と情報の共有ができた。次年度も教育活動に必要な内容を提供していく。 個別研修：自発的なさらに研修を進めていくために、定期的に働きかけていく。	B	○多くの先生が研究授業を実施し、相互に見学できることは素晴らしいことであると思う。年度ごとに共通の研究テーマを決めてやることも一案だと思う。
		「Find！アクティブラーナー」の視聴による個人研修の成果を授業改善シートに記入し、学校全体で共有する場を職員研修で設け、組織的な授業改善を図る。		B					
	年間を通じたマネジメントサイクルを取り入れることにより、組織的な授業改善を推進する。	学校独自の授業改善シートを活用することにより、マネジメントサイクルに基づいた授業改善を推進する。	授業アンケートを通して、それぞれの授業に対する生徒の考えを確認することができた。	B	B		若年の先生方を中心に、各教科で代表者の研究授業を実施、終了後合評会を設け、改善に向けた話し合いを行った。また、授業アンケートの結果を踏まえ、職員研修で魅力ある授業構築について考察した。授業を通した生徒との信頼関係の構築に向け、学校全体としての取組を考えていきたい。		
		Google Formsを活用して授業アンケートを実施し、それぞれ、取り組み指標及び検証指標の作成、成果と課題分析のための情報収集の支援を行う。		B					
		相互授業参観期間を設け、研究授業や授業の相互参観を推進し、実践・参観・協議を通して、授業改善を図れるよう支援する。		A					
第1学年経営	八女高生としての基本的生活習慣を確立させ、人間力と社会性の基盤を育成する。	八女高生としてふさわしい服装・頭髪、心のこもった挨拶や場に適した言葉遣いができるように、共通認識のもと全員で日常的に一貫した指導を行うとともに、公共の場のルールやマナーを遵守させることで規範意識を高める。	・学校満足度調査のルールやマナーを守ることができたかの項目において「とても思う・やや思う」は生徒99.2%であった。	A	A	A	基本的生活習慣は、ほぼ確立することができたが、12月以降に体調を崩して遅刻・欠席する生徒が増えた。挨拶やルール・マナーの順守は、ほとんどの生徒ができているが意識づけのために継続した指導が必要である。	A	○基本的生活習慣がしっかり身についている。 ○学校満足度調査で「授業で学力が高められているか」という質問に対する生徒と保護者の回答に約15%の差がある。
		部活動への加入を奨励し、集団内での人間関係構築力やコミュニケーション力を養成する。		A					
	進路実現のために意識を向上させ、基礎学力の定着を図る。	個別最適な学びを通して基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、粘り強く主体的に学習に取り組む態度を育成する。	・学校満足度調査の授業で学力を高めることができるかの項目において「とても思う・やや思う」は生徒94.8%、保護者79.6%であった。	A	A		高校卒業後の進路について、意識の高い生徒が明確な目標を掲げる一方で、「なりたい自分」を描けない生徒がいるのも事実である。学力については、高められていると感じている生徒が多いが、更に主体性を育む必要がある。		
		学校生活全体を通して将来の在り方・生き方について考え、主体的に意思決定・行動選択ができる能力を育む。		B					
	自他尊重の精神を育成し、生徒の自己肯定感を高める指導を行う。	二者面談や日常の対話を通して生徒理解に努め、保護者との連絡を密にすることで信頼関係を構築し、問題の早期解決に努める。	・学校満足度調査の悩み事を相談できるかの項目において「とても思う・やや思う」は生徒86.8%、保護者72.1%であった。	A	A		二者面談や学校生活アンケート等を通して、生徒の悩みを早期に把握して対応することができた。保護者や保健室・スクールカウンセラーとの連携もできた。次年度も早期対応ができるように二者面談等を充実させたい。		
		講演や活動などの様々な体験を通して、他者の個性や考えを尊重しながら高めあう雰囲気を醸成する。		A					
第2学年経営	素直・努力・協働の涵養を図り、人間力の基盤を育成する。	基本的生活習慣を確立させ安易な遅刻・欠席をせず、全教育活動を通して粘り強く努力が出来る、心身ともに逞しい生徒の育成を目指す。	・学校満足度調査から、悩み事などを学校に相談できる環境であると約90%の生徒が回答した。	B	A	A	中堅学年となり、様々な悩みを抱える生徒も増えてきたが、二者面談等を通して早期対応することができた。次年度は最終学年となり、よりプレッシャーを感じる生徒も多いと思われる。よって、1年間を通じて粘り強く努力を続けるために、上手にオン・オフの切り替えが出来るよう指導していきたい。	A	○「ちきゅうみらいプロジェクト」は、経済同友会の支援を受け、「学び方を学ぶ」という新たな活動として評価できる。だからこそ、ホームページやSNSにもっとアピールしてはどうか。 ○「ちきゅうみらいプロジェクト」の活動が、「なりたい自分」につながり、八女高の文化になっていけばいいと思う。 ○シンガポール修学旅行の満足度が非常に高く、充実した研修であったようだ。どうかこの経験を将来に活かして欲しい。
		「凡事徹底」一つひとつ着実に努力を重ね、何事も自分のこととして受け止め、よりよく解決するために自分が取り組もうとする主体性を育み、協働性を高める。		A					
	自己の在り方生き方を常に問い続け、学びの基盤となる資質・能力を育む。	「総合的な探究の時間」をはじめとするあらゆる授業の探究活動を通して、自己の在り方・生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決に向けて主体的に取り組めるよう、外部機関や地域社会との連携を目指す。	・学校満足度調査から、ちきゅうみらいプロジェクトが成長に繋がったと回答したのは約91%（生徒回答）、・約78%（保護者回答）であった。	A	A		ちきゅうみらいプロジェクトを軸とし、年間を通じた探究活動を通して、学ぶ意義を考えたり、学ぶ意欲の喚起につなげることができた。高大産官学交流を目指したことで、生徒の学びがより質の高いものとなった。次年度は、探究活動の成果をまとめたり、志望動機を考えたりすることで、確かなキャリア形成につなげたい。		
		生徒一人ひとりが個性や能力を発揮できる個別最適な学びを実現し、上位層、中位層、下位層のそれぞれの目的に見合った「確かな学力」を着実に定着させられるよう学級経営および教科指導に工夫を凝らす。		B					
	学校生活を通して自他の良さに気付かせ、生徒の自己肯定感を高める指導を行う。	「楽ではないけど楽しい学校」の実現および、中堅学年としてのリーダーシップおよびフォロワーシップを育むために、適宜学年行事を企画し、年間を通して生徒相互のリレーションシップの向上を目指す。	・学校満足度調査から、修学旅行の満足度は約95%（生徒回答）、・約93%（保護者回答）であった。	A	A		修学旅行における異文化交流などを通じて、国際理解を深めることができた。現地での交流だけではなく、事前指導の中で一人一役以上の役割を責任を持って果たすことで、自己存在感や自己肯定感も育むことができた。次年度は、学年行事に工夫を凝らすなどして、自ら学ぶ力を醸成していくことで、進路実現につなげたい。		
		学校行事やボランティア活動などに積極的に参加させるとともに、外部機関と連携し講演や活動などの様々な体験を通して、自他の良さに気付かせ、生徒一人ひとりの強みを引き出し、伸ばすことができるようにする。		A					

様式3

自己評価								学校関係者評価	
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート（外部アンケート等）の結果等	評価（3月）			結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
第3学年経営	成年を迎えるにあたり、社会を生きぬき、社会に貢献する逞しい生徒を育成する。	進路実現を目指す学習過程を通して、自らの課題を明らかにする「課題発見力」、将来に見通しを持つ「計画力」、自らの未来を実現していく「創造力」を育成する。	・学校満足度調査において、本項目における必要な力を「身に付けられたと思う」は生徒89%、保護者90%であった。	B	A	A	生徒は、日々の学校生活を落ち着いて送る中で、自身の成長に必要な力を身に付けることができた。「計画力」について、最終学年として踏まえるべき点を早く具体的に示すことで、自走する生徒がより増やしたい。	A	○最高学年としてこの1年間よく努力した生徒が多いように思う。 ○明確な進路に向けてほとんどの生徒が必死に勉強している姿が印象に残った。 ○進路が決定した生徒が決定していない生徒へ最大限の配慮がみられる。 ○学年ごとに動いている部分があるので、3年間の成果と反省を全学年で共有して欲しい。
		コミュニケーションの能力向上のため、心のこもった挨拶や場に適した言葉遣い「発信力」と相手の意見を理解しようとする「傾聴力」を育成する。		A					
	高い志を持った進路目標を掲げ、進路実現に必要な学力を身につける生徒を育成する。	第一志望合格に向けて、二者面談期間、「総合的な探究の時間」、空き時間等を活用し、個に応じた適切な進路指導（情報提供）を行い、進路意識を高めさせる。	・学校満足度調査において、本項目における必要な力を「身に付けられたと思う」は生徒93%、保護者81%であった。	A	A		生徒は、自身の進路と真剣に向き合う中で、タイムマネジメント能力を高めることができた。すき間時間について、学年として時間の確保や取り組みを行うことで、学習時間の確保に取り組みたい。		
		早朝・居残り学習や休日登校、隙間時間の有効活用を奨励し、自ら学習時間のコントロール（タイムマネジメント）を行い、自主学習時間を定着させる。		B					
	生徒・保護者・学校で信頼関係を深め、共感的人間関係を形成する。	面談や日常の対話を通して、生徒理解に努め、保護者との連絡を密にすることで信頼関係の構築を図る。	・保健室利用状況は少なく、利用生徒については担任・保護者と連携を取りながら対応した。	A	A		最終学年として、行事や部活動の締めくくりから進路決定に向かう過程の中で、生徒・保護者・学校でコミュニケーションを取りながら、進めることができた。		
		学年と教科担当者、保健室の連携を十分に図り、全職員で生徒の把握に努める。		A					
事務	電話応対・来客接遇の向上を図る。	電話対応や来客対応において、相手の立場に立った丁寧な対応を心掛け、接遇の向上に努める。		A	A	A	来客や電話の応対や施設の維持管理等、生徒や職員が教育活動に集中できるよう、しっかり対応することができた。物価をはじめ、様々なものの価格が高騰しているので、更なる節減に努めていく必要がある。	A	○特に意見や質問はない。引き続きよろしくお願いしたい。
	施設・設備の適切な維持管理を行う。	定期的に校内巡視を行い修繕等必要な個所等を把握するとともに、必要に応じて予算要求を行い適切な施設の維持管理に努める。		A					
	効果的な予算執行を行う。	職員に対して節電、用紙の節約等を呼び掛けることで経費の節減を図り、教育活動充実のための効果的な予算執行に努める。		B					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

○県立高校の魅力や特色をあらゆる機会をとおして中学生にPRするとともに、高校入試制度の趣旨を十分に踏まえつつ、志願倍率の向上を目指す。

○教員間で連絡を密にしながら、コミュニケーションを十分にとりつつ組織的な教育活動の実践する。

○職員間で生徒の情報を共有し、外部の専門家とも連携しながら不登校や不適応を減らす。

○本校の強みと生徒、保護者、地域のニーズを見極め、目標達成のために全職員で共通認識をもって取り組む。

○生徒の主体性を発揮させる場面を多く設定し、失敗を経験させながら人として成長させる。そのことを学校としての活性化につなげる。

学校関係者評価	
評価（総合）	自己評価は A：適切である B：概ね適切である C：やや適切でない D：不適切である
A	
評価項目以外のものに関する意見	
○様々なものが急激に変化していく社会において、八女高校が長い伝統の中で創り上げた「不易」の部分は、これからも大切にして欲しい。	